

## JABEE 設立の経緯

今日の社会では、科学技術によって生み出された膨大な種類の人工物が人々の豊かな生活を支えています。これらの人工物の多くは、作り方や利用方法を一步間違えれば、人々の安全を脅かしかねない危険をはらんでいます。このことは、それらの人工物を生み出す技術者が、高い専門能力とともに優れた倫理観を持ち合わせなければならないことを意味します。したがって、そのような技術者を育成する教育が社会にとっていかに大事なものかは論を待ちません。

欧米では第二次世界大戦以前から、技術者を育成する「技術者教育プログラム」(主に学科)を第三者が評価し、評価基準を満たしているプログラムを認定するというを行ってきました。これは、単に教育を評価するのが目的ではなく、専門職能団体(技術士会が一例)が自分たちの後継者をきちんと教育できるプログラムを認定することが目的であったため、技術者教育プログラムを修了しないとその専門職能に就けない(資格が得られない)のが普通です。

また、20世紀後半からのグローバル化の急速な進展に伴い、物資の輸出入の障壁の軽減や製品企画の共通化が進み、1995年にはWTO(世界貿易機関: World Trade Organization)が設立されて貿易に関連する様々な国際ルールを定めました。その中で、モノだけでなくサービス業務の障壁も対象になり、専門職の国際的な移動の促進が提言されました。

一方わが国ではバブル崩壊前後から、学会会議や一部の識者の間で、それまで世界一と自認していた工学系の教育がガラパゴス化して将来の競争力が低下するという危惧が共有されるようになりました。そして、技術者を育成する高等教育も世界に取り残されないように、技術者教育の認定制度を設置する提言がなされました。

世界では、わが国のバブルが崩壊した1989年に、米英など6カ国によって、技術者教育の質保証の同等性を相互承認する国際協定(ワシントン協定)が締結されました。これら6カ国はそれぞれ技術者教育の認定制度を持っていましたが(米国では1932年に発足)、各国の認定制度が教育の質を保証するという点で実質的に同等であることを認め合い、各国の技術者教育の質向上のバネとすることを目的にしています。

技術者教育の立ち遅れを心配したわが国の団体や有識者は、認定制度を早急に立上げてワシントン協定に加盟することを決定し、これに関係省庁、経済団体および主要な学協会が賛同して1999年にJABEEを設立し、2001年度から認定を開始しました。そして、当初の目標を達成して2005年にアジアおよび非英語圏国として初めてワシントン協定への加盟を果たしました。なお、ワシントン協定の創設6カ国の内5カ国は、前記の専門職能団体(我が国の技術士会に相当)が認定を行っていますが、米国のABETはJABEEと同様に学会をベースにした認定団体で、JABEEはシステム構築に際してABETの協力を得ました。JABEEの加盟が端緒となってその後アジアの主要国のほとんどがワシントン協定に加盟しました。そして、将来の技術者の国際的流動性を見据えて技術者教育の質向上のために切磋琢磨する動きが急速に広まっています。